

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.157



2007.7

- シリーズ“すばらしい本の世界”
- 図書館利用セミナー（ベイシック編）実施報告
- シリーズ“！”第23回 データベースで新聞記事を探そう！
- 平成18年度図書館利用統計
- 図書館イベント報告
- 図書館の動き
- 開館日程（7月～9月）



百見は一読に如かず



生形 貴男

今や“ヴィジュアル”的時代である。このページの写真を見ればわかるようにヴィジュアル系の対極に位置する私自身でさえ、最近は講義でパワーポイントを使うことが多い。カラーの写真や図を多用すると、概ね好評を博するからである。授業アンケートの自由記述欄に「たくさんの写真や図があってとてもわかりやすいです」などと書いてあるのを見つけた時こそ、時間を掛けて授業の準備をした甲斐があったと感じる瞬間である。しかしその反面で、「わかりやすい」という言葉に触れるといつも、「本当にわかっているのか」と心の中で問いかけてしまう。私の偏見かもしれないが、「わかりやすさ」とは「わかった気になる」自己欺瞞と紙一重の存

在であるような気がしてならないのだ。モヤモヤとした何かについて「わかる」ということは、誰かがそれを巧みに表現したイメージを眺めて納得することでは決してなく、そのモヤモヤを具現化したイメージの原型を自身で創り出すことに他ならないと私は考えている。「わかった気」にさせて学習意欲を育むのが目的の導入教育ならば、視覚情報の活用は大いに教育効果を上げるに違いない。しかしながら、自分でイメージを創出して自らの言葉に翻訳する力を涵養するには、“ヴィジュアル”的な世にあってなお、活字を読むことが最良の方法であると私は思う。

今から15年くらい前、映画『ジュラシック・パーク』が一世を風靡したが、その少し前には

マイクル・クライトンによる原作の邦訳が出版されていた。当時古生物学を専攻する大学院生だった私は、「これも専門の勉強也」と称して、原作の邦訳上下2巻を読んだ後に友人と連れ立って映画館に足を運んだが、結局何かしら物足りなさのようなものを感じながらエンドロールのクレジットタイトルを眺める羽目になった。スティーブン・スピルバーグが指揮した映像は確かに前評判通り素晴らしい出来映えだったが、どんなに写実的なCGやアниматорニクスも、具体的な像として目に映った時点でその存在は瞬時に見たままの姿として固定されてしまう。これに対して、活字による情景描写から想像していた登場恐竜たちは、その姿形の輪郭は曖昧模糊としていたにも拘わらず、圧倒的で不気味な存在感をもって私の脳裡に焼き付いていた。原作における登場人物たちの緊迫感溢れる心理描写は、翻訳においてさえ、ホラー映画宛らだったムービー以上に臨場感に満ちていた。映像が受動的な鑑賞者にもそれなりの“リアリティ”を提供してくれるのに対して、活字はそれを読み流す者にとっては素っ気無い存在だが、一旦その世界に入り込んだ読者にはしばしば映像以上のリアリティを“見せて”くれる。

翻って、大学の勉強について考えてみよう。大学までやって来て授業を受ける本来の目的は、授業で耳にした教員の言葉に相槌を打つことではなく、学問体系の入り口を見つけてその中に足を踏み入れる機会を得ることである。授業が娯楽に過ぎないのなら、巧みな話術でわかった気にさせる有名予備校宛らの講義を提供すればそれで十分で、極言すれば大学に附属図書館など無くとも良いかもしれない。話術の達者な教員なら、巧妙な比喩を駆使して聴講者の日常知の範囲で物事を説明しようと試みるのだろうが、そもそも大学で教授される学問には市民の日常知を超えた抽象概念が少なからず含まれており、授業はいわば担当教員流にそれらを噛み砕いて表現した初学者向けのコンサートのようなものだと言えよう。そのような他人の解釈の追体験

に満足せずに、講義を切欠として学問の深奥に分け入ろうと思ったら、耳学問や目学問だけではなく、本格的な多くの教科書・参考図書との格闘を避けては通れまい。

授業がコンサートなら、書籍はさしづめレコードといったところだろう。学者による“レコーディング”には様々な流儀があるので、図書館や書店に並ぶ書籍にも様々なスタイルのものがある。超人的な忍耐力を読者に強いりようひたすらストイックで難解な書物もあれば、反対に活字で「わかった気」にさせようと書かれた“やわらかい”ものも見受けられる。中には、安易な分かり易さを拒絶しつつも、巧みなメタファーやカジュアルな表現によって読者を惹きつけようと試みている逸品もある。そうした一例として、ダグラス・R・ホフスタッターの『ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環』を挙げたいと思う。この書籍では、ゲーデルの不完全性定理や自己言及などの難しい主題が、エッシャーの騙し絵やバッハのカノンを隠喩として解説されている。もっとも、エッシャーの絵を眺めたりバッハの曲を聴いただけでは到底そのような難解な概念を理解できようはずもなく、活字として表現された文章があつて初めて比喩がそれらを結びつけるのである。結局のところ、百聞も百見も一読に如かずというところではないだろうか。

（理学部・地球科学科）

【本稿で紹介された本】

『ジュラシック・パーク 上下2巻』(早川書房)
 マイクル・クライトン著、酒井昭伸訳
 静／浜・発注中

『ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環』(白揚社) ダグラス・R・ホフスタッター著、野崎昭弘・はやしはじめ・柳瀬尚紀訳
 静／浜・開架・閉架[410.1/H81]

平成19年 図書館利用セミナー (ベイシック編) 実施報告

これから新たに大学で学び、研究を始める新入生の皆さんに、様々な場面で図書館を有効活用してもらうためのセミナーです。

図書館利用の基本をマスターしたら、知識の輪をどんどん広げて、さらに次のステップへ！
このベイシック編は「はじめの一歩」です。

Library Navigator

2007

図書館利用のてびき



セミナーの内容は、「りぶ★なび」でおさらいできるよ！
さらに詳しい情報も満載です。

実施期間：4月16日(月)～7月9日(月)

実施回数：46回

- ・利用案内（サービス・施設・利用方法について）
- ・OPAC検索（検索方法の説明と実習）
- ・WEBサービス紹介
- ・書庫内ツアー

本館
(書庫内ツアーの様子)



OPAC検索の実習を中心に、図書館の利用方法を確実に習得できるような内容で実施しました。

実施後のアンケートからも「利用方法・検索方法」を理解できたという回答が得られました。

また、書庫内ツアーが楽しかった、もっと見学したいという意見が多く、ツアーの再体験も検討できたらと思いました。

今回の貴重な意見を参考にして、実際の利用に即した細かい説明や知りたいと思う点を絞ったより有意義なセミナーを目指したいと思います。

実施期間：4月17日(火)～6月5日(火)

実施回数：26回

- ・図書館の概要説明
- ・館内（閲覧室）ツアー
- ・蔵書検索の説明と実習（閲覧室での本の探索）
- ・雑誌検索の説明、データベース、WEBサービス紹介

分館
(図書館案内の様子)



主に検索の仕方を身につけてもらうことと、検索の結果から浜松分館の資料を実際に見てもらうことを目的として行いました。

今年は受講生に資料の配置を詳しく載せたフロアマップを配布し、参考図書など別置の資料について、よりわかりやすく説明するようにしました。

また、実習課題も個別タイトルだけでなく、テーマ検索の課題も加えることにより、検索結果の読み取力を引き出す工夫をしました。

セミナーの受講後も分からないこと、困ったことがあればいつでもカウンタへ声をかけてください。

自動貸出・返却装置の使い方、返却資料の置き場所、貸出中資料や学外資料の利用方法、WEBサービスの使い方、なんでも結構です。

セミナーを受講して図書館へ興味をもった、図書館の仕事について知りたい！

図書館が好きだ、という方も、いつでもカウンタへ声をかけてください。

今年度より、学生が参加できる図書館の活動を計画中です。



図書館へ
来てね！

シリーズ “！” 第23回

データベースで新聞記事を探そう！

図書館では新聞コーナーにある購読新聞のほか、閲覧室の専用端末から記事の検索・閲覧ができます。過去の記事は縮刷版やマイクロフィルム、原紙製本とさまざまな形態の資料で読むことができます。また、最新の新聞記事やニュースはインターネットでも利用できるなど、探し方はいろいろです。

今回は図書館で契約している2つのデータベースをご紹介します。

★蔵書リビュアル for Libraries (朝日新聞オンライン記事データベース)

ログインすると朝日新聞1985～当日・週刊朝日・AERA、朝日新聞縮刷版1945～1984（紙面イメージで収録）、知恵蔵、人物データベース、それぞれ検索画面を選べます。

蔵書リビュアル

朝日新聞1985～週刊朝日 AERA 朝日新聞縮刷版 1945～1984 知恵蔵 人物

検索画面へ戻る 静岡&ホタル 再検索 AND OR NOT

※グリーンで表示された記事は著作権などの関係で本文を表示できません。

総件数: 7件 通し番号: 1 ~ 7

No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数
00001	2007年6月23日	朝刊	静岡・1地方	031	00181文字
00002	2007年6月14日	朝刊	静岡全県・2地方	022	234文字
00003	2007年6月8日	朝刊	静岡全県・2地方	030	04058文字
	2007年6月1日	朝刊	静岡全県・2地方	028	03429文字

詳細検索を選ぶと検索条件を絞込むことができます。
 「AND」「OR」「NOT」のボタンを押すと両方を含む、どちらかを含む、後ろの言葉を除外するといった検索ができます。
 同意語でも記述が違う場合は結果が異なります。「OR」を使って検索してみましょう。
 画面上部の「使い方？」をクリックすると検索方法、検索のコツが分かります。
 をクリックすると切り抜きイメージが表示されます。

* 館内専用端末で利用
 * 利用終了時には必ずログアウトをお願いします。

過去3ヶ月分の地域面、見出しが本文を検索対象に「静岡 AND ホタル」で検索した結果です。(2007.6.28)
 * 地域面「静岡」の検索対象期間は、1993年10月～当日



昼間に楽しめる「ホタル」大井川

大井川町ホタル保存会（大畠正二代表）が昨年に引き続き、今年も、大井川町下江留の大井川中学校裏の水田に古代米を植えてホタルの絵を描いた一写真。今年はゲンジボタル（手前）と、発光はしないものの、ホタルに似て黒い羽根の一部が白くなっているホタルが向こう合っている図柄。

中学校の校庭のフェンス沿いで見物用の足場がしつらえられて、昼間に楽しむホタル狩りができる。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。
 すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

「朝日新聞2007年6月23日朝刊 静岡地方版

(朝日新聞記事データベースより)」掲載許諾済み

4

★静岡新聞記事データベース

静岡県を中心とした東海地区の情報を入手することができます。1988年5月～当日の記事を検索可能です。

静岡新聞記事情報 / G-Search

検索結果一覧 1 ~ 7 件目(全7件)

◎ この記事は本文を表示できません。

チェックボックスで複数記事を選択すると、一括表示が可能です。

<input type="checkbox"/>	清流=古紙回収サービス拡大を(政経部・海野俊也)	2007.06.21 朝刊 16頁 静岡 1静 (全273字)
<input type="checkbox"/>	静岡・新聞販売店 10社共同で古紙回収－駿河、葵区で今月始動 全県拡大も検討	2007.06.20 朝刊 25頁 静岡 三社 (全570字)
<input checked="" type="checkbox"/>	◎ 国会での審議、重要度の順に(新井泰／自宮業、66歳=静岡市葵区)	2007.06.07 静岡新聞
<input type="checkbox"/>	ようこそ=横田捷宏氏(中小企業)	2007.06.07 静岡新聞
<input type="checkbox"/>	風紋=浜松市「新区」発進－とも	2007.06.02 静岡新聞
<input type="checkbox"/>	◎ 保育料滞納者、徴収強化	2007.05.26 静岡新聞
<input type="checkbox"/>	「うまいもの」一堂に－葵区で県	2007.05.25 静岡新聞

過去1ヶ月分の見出しと本文を検索対象に「新聞 AND 静岡市 AND サービス」で検索した結果です。(2007.6.20)

タイトルをクリック！すると

静岡新聞記事情報 / G-Search

静岡・新聞販売店 10社共同で古紙回収－駿河、葵区で今月始動 全県拡大も検討

2007.06.20 朝刊 25頁 静岡 三社 (全570字)

静岡市葵、駿河区の新聞販売店10社が六月から、共同古紙回収サービス「トリ・クル」を始めた。購読者のうち回収希望世帯を対象に月一回、新聞紙と折り込み広告を無料回収する。県内では各販売店が独自に回収する地域はあるが、共同回収は珍しい。

＊ ＊

回収先世帯は各販売店を通じて静岡新聞社・静岡放送グループのマーケティング会社トムスが一括管理し、駿河区内の古紙問屋が一戸ごとに回収する。集合住宅の上階やオートロック式マンションにも対応していく。

五月には駿河区の一部地域で試行し、三日間で六百七世帯、十二トンを回収した。六月一日からは葵区内で本格始動。一日百世帯、一一ニトンほどを回収している。回収費用は古紙リサイクル料を当て、不足分は各販売店が負担する仕組み。収益が出た場合は環境事業などに活用するという。

両区内ではこれまで、各町内会や地元PTA、行政回収により古紙回収が行われていたが、「紙ひもで縛るのが面倒」、高齢者から「重くて収集場所まで運べない」などの声が上がっていた。

トリクル参加販売店の代表者は十九日、会見し、「従来の地域回収も活用してもらった上で、環境保護に貢献したい」と話した。今後は全県拡大も検討するという。

【写説】各家庭の古紙を収集するトリクル回収員＝静岡市内

静岡新聞社

一覧に戻る
再検索
ハイライト表示あり

「静岡新聞2007年6月20日（静岡新聞記事データベースより）」掲載許諾済み

マイクロフィルム：マイクロ資料室（本館）



縮刷版：開架3F和雑誌（本館）
開架雑誌（分館）

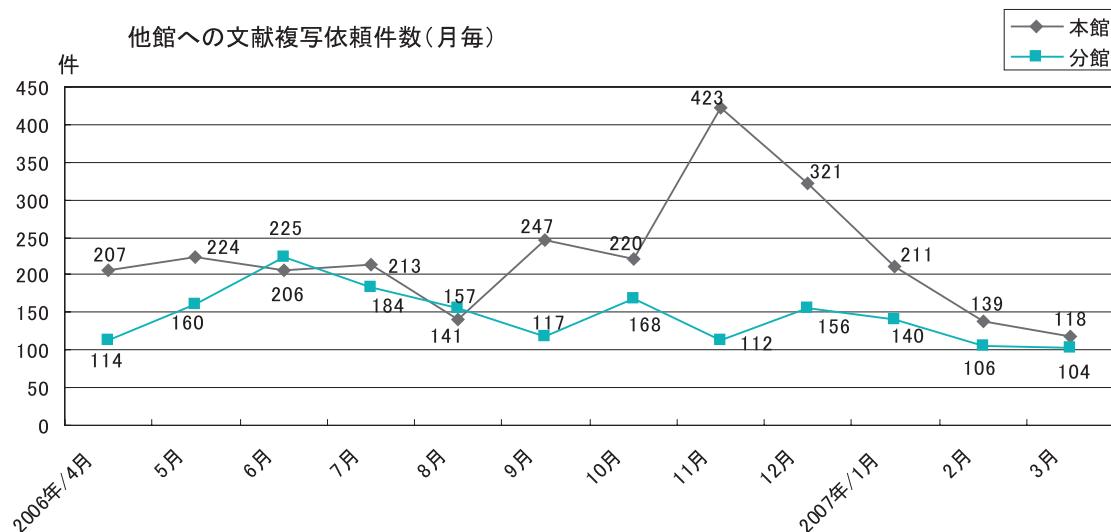
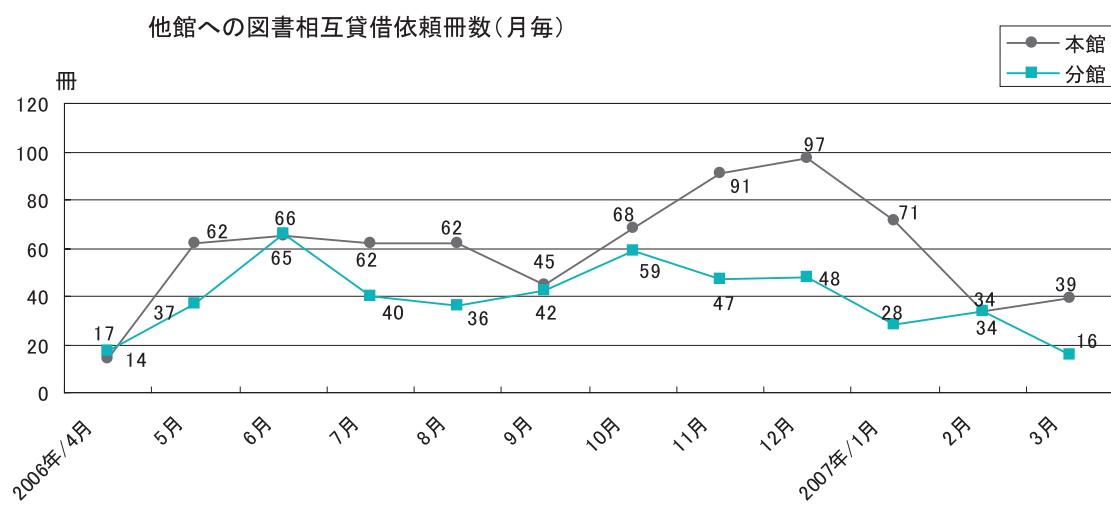
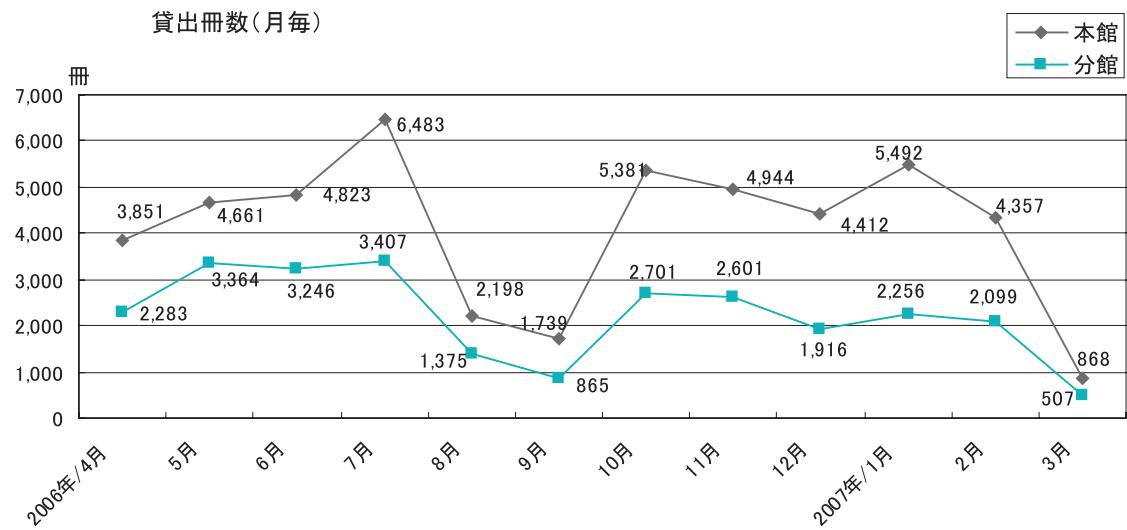


CD-ROM：図書館内の専用端末（本館）



5

◆◆◆◆ 平成18年度図書館利用統計 ◆◆◆◆



図書館公開イベント「のぞいてみよう 大学の図書館 2007」を開催

講義の行われない創立記念日（6月1日）を活用して、本館では図書館一般公開のイベントを開催しています。今年度は、「静岡大学市民開放授業」受講者を主な対象として計画しましたが、一般市民の方の参加も多く参加者は、総勢33名となりました。

内容は、図書館の閲覧室及び書庫内を見学する「館内ツアー」、パソコンを使った資料検索方法について説明する「検索案内」、参加者同士・図書館職員との懇親を図る「懇談会」の3つを1セッション（約90分）とし、午前・午後の部の2回を行いました。

また、展示コーナーとして「出版物でみる静岡大学」「新聞（原紙、縮刷版、マイクロフィルム・フィッシュ、DVD）」の資料展示を行いました。

参加者のアンケート集計結果でも好評を得られたことが確認でき、図書館の地域開放のPRとしてよいイベントとなったと思います。

※「のぞいてみよう大学の図書館」の実施風景・アンケート結果については、図書館ホームページに掲載していますので是非ご覧下さい。



図書館の動き

◆会議

平成19年度東海地区国立大学図書館協会総会

（平成19年4月27日（金）於：静岡大学）

附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長が出席。

国立大学図書館協会諸会議、第2回「国立大学附属図書館の課題に関する館長懇談会」、平成19年度東海・北陸地区国立大学法人等事務系（図書）職員採用試験等の報告があった。

引き続き、会長館の選出、第54回国立大学図書館協会総会に向けた準備事項、学術機関リポジトリの構築、人件費削減と図書館の事務体制、電子ジャーナル経費の確保について、活発な協議が行われた。



平成19年度第1回静岡大学附属図書館委員会

平成19年4月26日（木）

○審議事項

1. 委員会規則の改正等について

- (1) 附属図書館自己点検・評価実施委員会要項
- (2) 附属図書館の東西地区における個別事項の検討組織の在り方について

2. 附属図書館関連委員会委員等について

- (1) 広報委員会委員
- (2) 総合情報処理センター運営委員会委員
- (3) 「図書館通信」編集委員
- (4) 附属図書館自己点検・評価実施委員会委員

3. その他

○報告事項

1. 平成19年度附属図書館利用セミナーについて

2. その他

- (1) 外部会議出席等について

- (2) 電子ジャーナル&二次資料データベース利用統計について

◆人事異動

平成19年3月31日付

谷澤 礼子 (図書館マネジメントスタッフ主査
(企画調整担当)) <退職>
近藤 久直 (学術資料スタッフ主査 (雑誌情報担当)) → 沼津高等専門学校学生課図書係長)

平成19年4月1日付

真中 進 (利用サービススタッフ主査 (分館サービス担当) → 図書館マネジメントスタッフ主査 (電子情報担当))

溜湧 文子 (利用サービススタッフ主査 (情報サービス担当) → 学術資料スタッフ主査 (雑誌情報担当))

小濱 進 (図書館マネジメントスタッフ主査 (電子情報担当) → 利用サービススタッフ主査 (情報サービス担当))

釜田香寿枝 (利用サービススタッフ主任 (分館サービス担当) → 利用サービススタッフ主査 (分館サービス担当))

木下 佳明 (契約スタッフ主任 → 図書館マネジメントスタッフ主任 (企画調整担当))

横山 芳美 (利用サービススタッフ → 図書館マネジメントスタッフ)

平成19年5月1日付

片瀬 雅裕 (事務局付 → 図書館マネジメントスタッフ主査 (電子情報担当))

開館日程 [2007年7月～9月]

[共通]

7月							
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

9:00～22:00

9:00～17:00

9:00～19:00

臨時休館 (停電のため)

※臨時の休館日は、別途お知らせします。

● 夏休みの長期貸出を実施します

平成19年7月18日 (水) から平成19年9月19日 (水) までに
貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。

⇒ 平成19年10月3日 (水)

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第157号 (平成19年7月20日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4474 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

◆平成19年度附属図書館委員会委員

館長	加藤憲二
浜松分館長	雨宮正彦
人文学部	田村充正
教育学部	朴根好
情報学部	小西潤子
理学部	香野毅
工学部	北澤茂良
農学部	生形貴男
創造科学技術大学院	依岡輝幸
法務研究科	東直人
電子工学研究所	足達慎二
大学教育センター会議	田中昭
学術情報部長	土屋智
	釜谷保志
	山崎昌一
	石尾賢二
	原和彦
	半田智久
	千葉清人

◆平成19年度図書館通信編集委員

館長	加藤憲二
情報学部 (分館長)	雨宮正彦
大学教育センター会議	半田智久
(附属図書館)	大石博昭
	木下佳明
	杉山泰代
	高橋里江
	真中進
	宮村由起子

[静岡本館]

8月							
日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

[共通]

9月							
日	月	火	水	木	金	土	
						1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30							

[浜松分館]

8月							
日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

